

畑石議員（自民議連）

令和4年12月12日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）広島市域における高等学校の在り方について

県教育委員会においては、これから、県立高等学校の在り方に係る基本計画の策定に向けた議論が本格化すると思うが、是非、広島市域の高校再編に正面から向き合い、人生を歩む上での選択肢を提示する内容となるような検討を盛り込むべきと考えるが、教育長の所見を伺う。

（答）

県立高等学校の再編整備につきましては、平成26年2月に策定した「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」に基づき、長期的かつ全県的な視野に立った取組を進めているところであり、私立、市立及び国立高等学校と協力又は補完し合いながら、互いに切磋琢磨し、県全体の教育水準の維持・向上に努めているところでございます。

今後、デジタル技術の進展・高度化をはじめ、社会環境や国際情勢等が急速かつダイナミックに変化していくことが想定される中、このような変化にも柔軟に対応し、活躍できる人材を確実に育成していくためには、新たな時代に対応した取組に果敢にチャレンジしていく必要があると考えております。

このため、例えば、工業高等学校におきましては、ものづくりに関する最先端の知識・技術を活用して新たな価値を創造する力などの習得を目指し、デジタル化に対応した産業教育設備を整備するなど、卒業後に、即戦力で働くことのできる人材や、社会の変化等に柔軟に対応できる人材の育成に取り組んでいるところでございます。

また、商業高等学校におきましては、ビジネス探究プログラムにおいて、生徒が「生きるとは何か」をはじめとした「本質的な問い」に向き合い、対話しながら、自分の考えを深めていくなど、商業を学ぶ意義や楽しさを実感するようなカリキュラムを実践しているところでございます。

こうした取組などを通して、「生涯にわたって能動的に学び続ける力」を育むことで、リカレント教育やリスキリングにもつなげていきたいと考えております。

こうした取組を進める中で、今後の県立高等学校教育の在り方につきましては、

- ・ 国の中央教育審議会の答申におきまして、地域産業界を支える革新的な

人材を育成することについての方向性が示され、専門高校段階での人材育成の在り方や教育課程の開発・実践などについて必要性が示されたこと、

- ・ 本県の地方産業教育審議会において、本県産業の発展を担う職業人として、多様な分野・職種の人々と協働して課題を解決することができる資質・能力の習得が必要なことから、学校・学科の枠を超えたカリキュラムの開発や生徒の学習環境を整備することの必要性が示されたこと

などを踏まえながら、検討を進めているところでございます。

また、広島市域におきましては、今後ますます児童生徒数の減少が見込まれていることから、広島市域全体の高等学校教育の在り方について、広島市教育委員会と積極的に情報交換等の場を設けるなど、緊密な連携を図ってまいりたいと考えております。

県教育委員会といたしましては、「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」の次期計画を策定していく中で、全ての子供たちが、一人一人の適性や興味・関心などに応じた個別最適な学びにより、右肩上がりに成長できる内容を盛り込むことについて、しっかりと検討してまいります。